

# 公衆衛生学のポイント

過去出題数(H29~R5)

1	衛生統計	8問
1	生活衛生	8問
3	公衆衛生	7問
3	公害	7問
5	感染症と病原体	6問
5	生活習慣病	6問
5	労働衛生	6問
8	感染予防	4問
8	消毒薬・滅菌法	4問
8	衛生害虫等と感染症	4問
11	環境衛生	3問

## <衛生統計>

### 【最重要キーワード】

わが国の平均寿命は戦後急速に伸び、男女とも1983年には世界最長寿国となった。

2014(平成26)年の自殺者数は2万4000人を超えており自殺予防対策も大きな課題である。

戦後は、感染症による死亡の減少や乳児死亡率の低下により、死亡率は大きく減った。年齢調整死亡率で諸外国と比較しても日本の死亡率は低い。

わが国の出生数は、第2次ベビーブーム以降は減少の一途をたどっている。

合計特殊出生率は、15歳から49歳の女子の各年齢別出生率の合計のことで、2022年のわが国は1.26で2005年と並んで過去最低になった。

罹患率とは、ある疾患の、単位人口に対する一定期間に発生する患者の割合のことで、通常は人口10万人に対して年単位で表される。

「食中毒統計調査」や「国民生活基礎調査」は、疾病統計に利用される。

感染症発生動向調査では、法律で指定された感染症が発生した場合、集団発生に限らず全ての数を、医師が保健所に届け出ることによって流行動向を把握している。

総人口(令和4(2022)年)

1億2494万人(12年連続で減少)

高齢化率(令和4(2022)年)

29.1%

平均寿命(令和4(2022)年)

男)81.05歳(前年81.47)

女)87.09歳(前年87.57)

※新型コロナウイルス感染症の影響で平均寿命が前年を下回った。

死因順位(令和4(2022)年)

1位	悪性新生物(24.6%)
2位	心疾患(14.8%)
3位	老衰(11.4%)

人口動態(令和4(2022)年)

	実数	率
出生	77.1万人	6.3
死亡	156.9万人	12.9
合計特殊出生率		1.26

## 覚えよう！【出た順まとめ】

(高齢化率)

★★★わが国の高齢化率(65歳以上の人口割合)は、2016年で、27.4%だった。(R2)(R1)(H30)

(人口統計)

★★人口動態統計とは、1年間に発生した出生、死亡、死産、婚姻、離婚という人口の変動要因となるできごとを把握するものである。(R5)(R4)

★★人口静態統計とは、ある一時点の人口の統計。日本では5年ごとの国勢調査(10月1日)で行う。(R2)(H30)

(死因)

★★高齢化に伴い、2018年(平成30年)には、老衰が死因の第3位になり、脳血管疾患を上回っている。(R5)(H30)

★2019年の死因別にみた死亡率では、悪性新生物(がん)が死因の第1位である。(R3)

★1980年代前半まで、わが国における死因の第1位は、脳血管疾患であった。(R1)

★2014(平成26)年の自殺者数は2万4000人を超えており自殺予防対策も大きな課題である。(H30)

(死亡率)

★★戦後は、感染症による死亡の減少や乳児死亡率の低下により、死亡率は大きく減った。年齢調整死亡率で諸外国と比較しても日本の死亡率は低い。(R5)(R4)

★死亡率とは、人口千人に対する1年間の死亡者数のことである。(H30)

(疾病統計)

★★罹患率とは、ある疾患の、単位人口に対する一定期間に発生する患者の割合のことで、通常は人口10万人に対して年単位で表される。(R3)(H29)

★有病率とは、ある時点でのその集団における病気にかかっている者の割合のことである。(H29)

(総人口)

★★わが国の総人口は、1920年には約5,600万人であったのが、1967年に初めて1億人を超えた。(R4)(R1)

(寿命)

★平均寿命は、死亡率や乳児死亡率と併せて健康指標として、国際比較にも利用される。

(R5)

★わが国の2019年の平均寿命は、男女とも過去最高を更新した。(R3)

★わが国の平均寿命は戦後急速に伸び、男女とも1983年には世界最長寿国となった。(R1)

★わが国は、男女平均で世界最長寿国。女性は世界1位だが、男性はスイスが1位である。

(H30)

★健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間をいう。

(H30)

(出生)

★わが国の出生数は、第2次ベビーブーム以降は減少の一途をたどっている。(R4)

★合計特殊出生率は、15歳から49歳の女子の各年齢別出生率の合計のことで、2022年のわが国は1.26で2005年と並んで過去最低になった。(H30)

(食中毒統計)

★「食中毒統計調査」や「国民生活基礎調査」は、疾病統計に利用される。(R2)

★食中毒統計は、食品衛生法第58条に基づく医師から保健所長への届出により作成されており、食中毒の発生件数や患者数などが集計されている。(H29)

(感染症統計)

★感染症発生動向調査では、法律で指定された感染症が発生した場合、集団発生に限らず全ての数を、医師が保健所に届け出ることによって流行動向を把握している。(R3)

★感染症発生動向調査は、感染症に関する情報の収集・分析を行い、その結果を広く公表することにより、感染症の予防と発生拡大の防止を目的としている。(H29)

★「感染症発生動向調査」は、感染症法に基づいて集計されている。(R2)

## 解いてみよう！【過去問】

問1 次の人口統計に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R5-6)

- 1 平均寿命は、死亡率や乳児死亡率と併せて健康指標として、国際比較にも利用される。
- 2 人口動態統計とは、1年間に発生した出生、死亡、死産、婚姻、離婚という人口の変動要因となるできごとを把握するものである。
- 3 戦後は、感染症による死亡の減少や乳児死亡率の低下により、死亡率は大きく減ったが、年齢調整死亡率で諸外国と比較すると、いまだ日本の死亡率は高い。
- 4 高齢化に伴い、2018年(平成30年)には、老衰が死因の第3位になり、脳血管疾患を上回っている。

問2 次の人口統計に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R4-6)

- 1 わが国の総人口は、1920年には約5,600万人であったのが、1970年には1億人を超えた。
- 2 人口動態統計とは、1年間に発生した出生、死亡、死産、婚姻、離婚という人口の変動要因となる出来事を把握するものである。
- 3 わが国の出生数は、第1次ベビーブーム期を頂点として以降、減少の一途をたどっている。
- 4 戦後のわが国の死亡率は、感染症による死亡の減少や乳児死亡率の低下によって、著しく改善した。

問3 次の衛生統計に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R3-6)

- 1 わが国の2019年の平均寿命は、男女とも過去最高を更新した。
- 2 2019年の死因別にみた死亡率では、悪性新生物(がん)が死因の第1位である。
- 3 感染症発生動向調査では、法律で指定された感染症が集団発生した場合に、医師が保健所に届け出ることによって流行動向を把握している。
- 4 疾病統計における罹患率とは、ある疾患の単位人口に対する一定期間に発生する患者の割合をいう。

問4 次の衛生統計に関する記述のうち、正しいものはどれか。(R2-6)

- 1 人口静態統計とは、1年間で発生した出生、死亡、死産、婚姻、離婚という人口の変動要因となるできごとを把握するものである。
- 2 わが国の高齢化率(65歳以上の人口割合)は、2016年で、17.4%であった。
- 3 「食中毒統計調査」や「国民生活基礎調査」は、疾病統計に利用される。
- 4 「感染症発生動向調査」は、食品衛生法に基づいて集計されている。

問5 次の人口統計に関する記述のうち、正しいものはどれか。(R1-7)

- 1 わが国の総人口は、1920(大正9)年には1億人を超えた。
- 2 わが国の高齢化率(65歳以上の人口割合)は、2016年で、17.4%であった。
- 3 1990年代前半まで、わが国における死因の第1位は、脳血管疾患であった。
- 4 わが国の平均寿命は戦後急速に伸び、男女とも1983年には世界最長寿国となった。

問6 次の人口統計に関する記述のうち、正しいものはどれか。(H30-7)

- 1 人口静態統計とは、1年間に発生した出生、死亡、婚姻、離婚という人口の変動要因となる出来事を把握するものである。
- 2 死亡率とは、1万人に対する1年間の死亡者数のことである。
- 3 2014(平成26)年の自殺者数は2万4000人を超えており自殺予防対策も大きな課題である。
- 4 わが国は、男女とも世界最長寿国となり、男性では現在も最長寿である。

問7 次の人口統計に関する記述のうち、正しいものはどれか。(H29-7)

- 1 55歳以上の老年人口の割合は、年々増加し、40%を超えている。
- 2 近年の死因別死亡数は、悪性新生物(がん)、不慮の事故、肺炎の順に多い。
- 3 合計特殊出生率は、15歳から49歳の女子の各年齢別出生率の合計のことで、わが国は2.0を下回っている。
- 4 健康寿命とは、0歳の者が今後何年生きられるかを示したものである。

問8 次の疾病統計に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(H29-8)

- 1 罹患率とは、ある疾患の、単位人口に対する一定期間に発生する患者の割合のことで、通常は人口1,000人に対して年単位で表される。
- 2 有病率とは、ある時点でのその集団における病気にかかっている者の割合のことである。
- 3 食中毒統計は、食品衛生法第58条に基づく医師から保健所長への届出により作成されており、食中毒の発生件数や患者数などが集計されている。
- 4 感染症発生動向調査は、感染症に関する情報の収集・分析を行い、その結果を広く公表することにより、感染症の予防と発生拡大の防止を目的としている。

## 正答・解説【過去問】

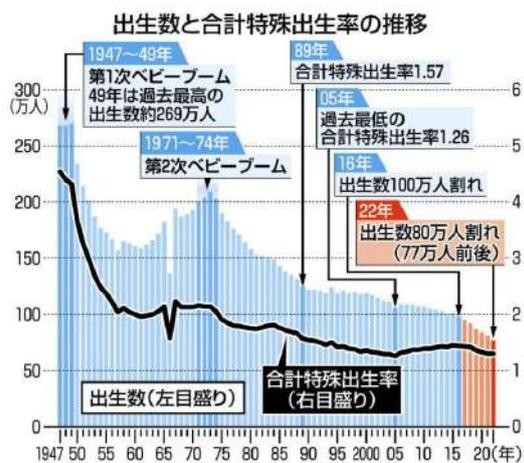
問1 正答3

3 戦後は、感染症による死亡の減少や乳児死亡率の低下により、死亡率は大きく減った。年齢調整死亡率で諸外国と比較しても日本の死亡率は低い。

(2014年の年齢調整死亡率の国際比較では、日本を100とするとアメリカ152、フランス117、ドイツ132、イギリス132。)

問2 正答3

3 わが国の出生数は、戦後の第1次ベビーブーム期(1947～49年)を頂点(270万人)として減少したが、第1次ベビーブーム期に生まれた子が親になり第2次ベビーブーム(1971～74年)を迎えた(200万人)。第2次ベビーブーム以降は減少の一途をたどっている。



(2023年3月1日東京新聞朝刊)

## 問3 正答3

3 感染症発生動向調査では、法律で指定された感染症(一～五類感染症と新型インフルエンザ等)が発生した場合、(集団発生に限らず)全ての数を、医師が保健所に届け出ることによって流行動向を把握している。また、指定の医療機関で診断された患者の報告を求める定点把握(水痘、おたふく風邪、淋病など)も行っている。

## 問4 正答3

1 人口動態統計とは、ある一時点の人口の統計。日本では5年ごとの国勢調査(10月1日)で行う。1年間で発生した出生、死亡、死産、婚姻、離婚という人口の変動要因となるできごとを把握するのは人口動態統計。

2 わが国の高齢化率(65歳以上の人口割合)は、2016年で、27.4%だった。2022年は29.1%になった。2040年の推計は35%を超えている。

4 「感染症発生動向調査」は、感染症法に基づいて集計されている。

## 問5 正答4

1 わが国の総人口が1億人を超えたのは、1967年。1920(大正9)年は第一回国勢調査が行われ、人口は5596万人だった。

2 わが国の高齢化率(65歳以上の人口割合)は、2016年で、27.4%であった。2022年に29.0%になった。

3 1980年代前半まで、わが国における死因の第1位は、脳血管疾患であった。その後は悪性新生物(がん)が第1位になり、1985年ころから第2位が心疾患になり、脳血管疾患は第3位になった。2018年には老衰が第3位、脳血管疾患は第4位になった。

4 令和2年の平均寿命は男81.56歳、女87.71歳だったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和4年の平均寿命は男81.05歳、女87.09歳に低下した。

## 問6 正答3

1 人口動態統計とは、ある一時点の人口の統計。日本では5年ごとの国勢調査(10月1日)で行う。1年間で発生した出生、死亡、死産、婚姻、離婚という人口の変動要因となるできごとを把握するのは人口動態統計。

2 死亡率とは、人口千人に対する1年間の死亡者数のことである。

3 2014(平成26)年の自殺者数は2万4000人を超えており自殺予防対策も大きな課題である。令和4年の自殺者数は2万1881人だった。

4 わが国は、男女平均で世界最長寿国。女性は世界1位だが、男性はスイスが1位である。(2023年WHO)

問7 正答3

- 1 老年人口は65歳以上の割合。2022年の高齢化率は29.1%だった。
- 2 2022年の死因別死亡数は、悪性新生物(がん)、心疾患、老衰の順だった。
- 3 合計特殊出生率は、15歳から49歳の女子の各年齢別出生率の合計のことで、2022年のわが国は1.26で2005年と並んで過去最低になった。
- 4 健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間をいう。0歳の者が今後何年生きられるかを示したものは平均寿命。

問8 正答1

- 1 罹患率とは、ある疾患の、単位人口に対する一定期間に発生する患者の割合のことで、通常は人口10万人に対して年単位で表される。

## <生活衛生>

### 【最重要キーワード】

わが国の下水道処理人口普及率は、令和元年(2019年)で80%。

産業廃棄物の処理は、排出事業者の責務である。

わが国の水道普及率は98%に達している。(2019年)

水道の水質基準値で、検出されない基準が設定されているのは大腸菌のみである。

安全な飲料水の確保のため、水道水は「水質基準に関する省令」で規定する51項目の水質基準に適合することが必要である。

## 覚えよう！【出た順まとめ】

### （上水道）

- ★★★★水道の水質基準値で、検出されない基準が設定されているのは大腸菌のみである。(R2)(R1)(H30)(H29)
- ★★わが国の水道普及率は98%に達している。(2019年)(R3)(H29)
- ★★安全な飲料水の確保のため、水道水は「水質基準に関する省令」で規定する51項目の水質基準に適合することが必要である。(R3)(H30)
- ★水源を含めた水道システムの安全確保対策のもと、水道が普及し、水系感染症が大幅に減少した。(R3)
- ★受水槽を介して水道水を給水する場合、受水槽及びそれ以降の水質は、受水槽の設置者が適正に管理しなければならない。(R3)
- ★「水道」とは「導管及びその他の工作物により、水を人の飲用に適する水として供給する施設の総体」と定義されている。(H30)
- ★日本における近代的水道は1887(明治20)年に横浜市の外国人居留地で給水されたのが始まりである(H30)
- ★上水道は微生物等の殺菌のために遊離残留塩素を0.1mg/L以上保持するように定められている(H29)
- ★クリプトスポリジウムは、塩素消毒に抵抗性をもつ病原性原虫である。(H29)

### （下水道）

- ★★生活排水のうち、家庭の台所や洗濯などによって排出される水を生活雑排水という。(R4)(R2)
- ★★生活排水のうち、し尿は浄化処理が義務づけられている。(R4)(R2)
- ★★未処理の生活雑排水は、河川や海の汚染の原因となる。(R4)(R2)
- ★★わが国の下水道処理人口普及率は、令和元年(2019年)で80%。(R4)(R2)

### （廃棄物）

- ★日常生活で排出されるごみやし尿は、一般廃棄物である。(R3)
- ★一般廃棄物の処理にあたっては、できるだけ資源化や再利用することが推進されている。(R3)
- ★「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」では、リサイクルの推進、排出事業者責任の強化などの措置が講じられている。(R3)
- ★産業廃棄物の処理は、排出事業者の責務である。(R3)

## 解いてみよう！【過去問】

問1 次の下水道に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R4-7)

- 1 生活排水のうち、家庭の台所や洗濯などによって排出される水を生活雑排水という。
- 2 生活排水のうち、し尿は浄化処理が義務づけられている。
- 3 わが国の下水道処理人口普及率は、2016年には98%に達している。
- 4 未処理の生活雑排水は、河川や海の汚染の原因となる。

問2 次の廃棄物処理に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R3-7)

- 1 日常生活で排出されるごみやし尿は、一般廃棄物である。
- 2 産業廃棄物の処理は、市町村の責務である。
- 3 一般廃棄物の処理にあたっては、できるだけ資源化や再利用することが推進されている。
- 4 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」では、リサイクルの推進、排出事業者責任の強化などの措置が講じられている。

問3 次の水道に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R3-8)

- 1 安全な飲料水確保のため、水道法に基づき水質基準が定められている。
- 2 水源を含めた水道システムの安全確保対策のもと、水道が普及し、水系感染症が大幅に減少した。
- 3 わが国の水道普及率は、2017年には88%に達している。
- 4 受水槽を介して水道水を給水する場合、受水槽及びそれ以降の水質は、受水槽の設置者が適正に管理しなければならない。

問4 次の水道法による水質基準項目と基準値の組合せのうち、誤っているものはどれか。  
(R2-4)

	項目	基準値
1	大腸菌	検出されないこと
2	亜硝酸態窒素	0.04mg/L以下
3	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	300mg/L以下
4	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	検出されないこと

問5 次の下水道に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R2-8)

- 日常生活に伴って家庭から出る生活排水は、し尿を含んだ「し尿排水」と台所や洗濯などによって排出される「生活雑排水」の2種類がある。
- し尿排水は、浄化処理が義務づけられている。
- わが国の下水道処理人口普及率は、100%である。
- 生活雑排水は、河川や湖沼、海の汚染の原因となる。

問6 次の水道法による水質基準項目と基準値の組合せとして、誤っているものはどれか。  
(R1-8)

	項目	基準値
1	一般細菌	検出されないこと
2	亜硝酸態窒素	0.04mg/L以下
3	塩化物イオン	200mg/L以下
4	pH値	5.8以上8.6以下

問7 次の水道に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(H30-9)

- 1 「水道」とは「導管及びその他の工作物により、水を人の飲用に適する水として供給する施設の総体」と定義されている。
- 2 水道法の水質基準では、大腸菌が検出されないこととされている。
- 3 日本における近代的水道は1887(明治20)年に横浜市の外国人居留地で給水されたのが始まりである
- 4安全な飲料水の確保のため、水道水は「水質基準に関する省令」で規定する26項目の水質基準に適合することが必要である。

問8 次の上下水道に関する記述のうち、正しいものはどれか。(H29-10)

- 1 上水道は微生物等の殺菌のために遊離残留塩素を1.0mg/L以上保持するように定められている
- 2 クリプトスポリジウムは、塩素消毒に抵抗性をもつ病原性原虫である。
- 3 水道法の水質基準では、大腸菌が10個/ml以下であることとされている。
- 4 わが国の下水道処理人口普及率は100%(平成26年度)に達している。

## 正答・解説【過去問】

問1 正答3

3 わが国の下水道処理人口普及率は、令和元年(2019年)で80%。水道普及率は98%に達している。

問2 正答2

2 産業廃棄物の処理は、排出事業者の責務である。

問3 正答3

3 わが国の水道普及率は98%に達している。(2019年)

問4 正答4

4 有機物(全有機炭素(TOC)の量)は3mg/L以下。検出されない基準が設定されているのは大腸菌のみ。

問5 正答3

3 わが国の下水道処理人口普及率は、令和元年(2019年)で80%。水道普及率は98%に達している。

問6 正答1

水道法の水質基準で検出されないこととされるのは大腸菌のみ。一般細菌は1ml中100以下が基準。

問7 正答4

4安全な飲料水の確保のため、水道水は「水質基準に関する省令」で規定する51項目の水質基準に適合することが必要である。

問8 正答2

1 上水道は微生物等の殺菌のために遊離残留塩素を0.1mg/L以上保持するように定められている

2 クリプトスポリジウムは、塩素消毒に抵抗性をもつ病原性原虫である。

3 水道法の水質基準では、大腸菌は検出されないこととされている。

4 わが国の下水道処理人口普及率は80.6%(令和3年度)。

## <公衆衛生>

### 【最重要キーワード】

世界保健機関(WHO)は、健康について「健康とは状態であり、身体的、精神的そして社会的に完全に良好であり、単に疾病や虚弱ではないという状態ではない。」と定義している。

日本国憲法第25条には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」、「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」とあり、健康は基本的権利であり、その保障のための公衆衛生に対する国の責務が示されている。

第二次世界大戦後、日本国憲法第25条を根拠にして、公衆衛生行政は衛生行政に位置づけられた。

1948年、国際連合の保健専門機関として、世界保健機関(WHO)が発足した。

1947年、保健所法は全面改正され、保健所を都道府県または政令で定める市に設置するとされた。

## 覚えよう！【出た順まとめ】

(健康の定義)

★★★世界保健機関(WHO)は、健康について「健康とは状態であり、身体的、精神的そして社会的に完全に良好であり、単に疾病や虚弱ではないという状態ではない。」と定義している。(R4)(R3)(H29)

(憲法第25条)

★日本国憲法第25条には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」、「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」とあり、健康は基本的権利であり、その保障のための公衆衛生に対する国の責務が示されている。(R5)

(世界の公衆衛生史)

★1300年代、ヨーロッパでのペストの大流行を契機に、イタリア諸国では、衛生局が設置された。(R1)

★イギリスは、近代公衆衛生の父と言われるチャドウィックの報告をうけ、1848年に世界で最初の公衆衛生法を制定した。(R1)

★WHOは、1978年、「西暦2000年までにすべての人々に健康を」をめざし、プライマリ・ヘルスケアに関する「アルマ・アタ宣言」を採択した。(R1)

★1948年、国際連合の保健専門機関として、世界保健機関(WHO)が発足した。(R1)

(日本の公衆衛生史)

- ★日本の公衆衛生は、1874(明治7)年の医制の発布に始まる。(H30)
- ★1914(大正3)年、日本赤十字社により乳幼児健康相談事業所が設置された。(H30)
- ★1935(昭和10)年以後のロックフェラー財団の寄付により、国立公衆衛生院(現国立保健医療科学院)が設置された。(H30)
- ★第二次世界大戦後、日本国憲法第25条を根拠にして、公衆衛生行政は衛生行政に位置づけられた。(H30)
- ★1947年、保健所法は全面改正され、保健所を都道府県または政令で定める市に設置するとされた。(R2)
- ★1961年に整備された国民皆保険制度は、現在の日本の保健医療システムの根幹となっている。(R2)
- ★1980年代以降は、高齢化や成人病の対策が、大きく取り上げられるようになった。(R2)
- ★1994年には、保健所法が地域保健法に改正され、保健所に加えて市町村保健センターが身近な保健サービスの拠点となった。(R2)

(公衆衛生の流れ)

1873(明治6)年	西洋医学教育の充実のため文部省内に医務局を設置
1873(明治7)年	衛生行政と医療制度の仕組みを定めた医制の発布。
1875(明治8)年	内務省の衛生局に移管し、環境衛生を進める。感染症対策は警察が行う。
1914(大正3)年	日本赤十字社が乳幼児健康相談事業所を設置
1935(昭和10)年	国立公衆衛生院が設置
1937(昭和12)年	日中戦争。国民の体力増強のため保健所法制定。
1938(昭和13)年	国民の体力向上・福祉増進のため厚生省誕生。1941年太平洋戦争。
1945(昭和20)年	終戦。GHQが日本を統治。
1947(昭和22)年	保健所法改正。保健所を都道府県、市に設置。
1948(昭和23)年	WHO発足。食品衛生・感染症が警察署から保健所に移管。
1961(昭和36)年	国民皆保険の実現。
1982(昭和57)年	老人保健法制定
1988(昭和63)年	第二次国民健康づくり対策
1994(平成6)年	保健所法を改正し、地域保健法制定。
2000(平成12)年	「健康日本21」で健康寿命の延伸、生活習慣病対策。介護保険法施行。
2001(平成13)年	厚生労働省が発足(厚生省と労働省が統合)
2003(平成15)年	健康増進法制定
2021(令和3)年	平均寿命男81.5年、女87.6年。

## 解いてみよう！【過去問】

問1 次の公衆衛生に関する記述のうち、( )の中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。(R5-5)

日本国憲法第25条には、「すべて国民は、( A )で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」、「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の( B )に努めなければならない」とあり、Aは基本的権利であり、その保障のための公衆衛生に対する国の責務が示されている。

	A	B
1	享乐的	責任及び履行
2	勤勉	検証及び発展
3	気品的	維持及び評価
4	健康	向上及び増進

問2 次の健康の定義に関する記述のうち、( A )と( B )の中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。(R4-5)

世界保健機関(WHO)は、健康について「健康とは状態であり、( A )、精神的そして社会的に完全に良好であり、単に( B )や虚弱ではないという状態ではない。」と定義している。

	A	B
1	身体的	疾病
2	科学的	肥満
3	衛生的	不潔
4	経済的	貧困

問3 次の公衆衛生の定義に関する記述のうち、( A )と( B )の中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。(R3-5)

「( A )は、健康について「健康とは状態であり、身体的、精神的そして( B )に完全に良好であり、単に疾病や虚弱ではないという状態ではない。」と定義している。」

	A	B
1	WHO(世界保健機関)	社会的
2	UN(国際連合)	人道的
3	UNICEF(国際連合児童基金)	経済的
4	UNESCO(国際連合教育科学文化機関)	衛生的

問4 次の日本の公衆衛生の歴史に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R2-5)

- 1 1917年、保健所法は全面改正され、保健所を都道府県または政令で定める市に設置するとされた。
- 2 1961年に整備された国民皆保険制度は、現在の日本の保健医療システムの根幹となっている。
- 3 1980年代以降は、高齢化や成人病の対策が、大きく取り上げられるようになった。
- 4 1994年には、保健所法が地域保健法に改正され、保健所に加えて市町村保健センターが身近な保健サービスの拠点となった。

問5 次の世界における公衆衛生の歴史に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R1-6)

- 1 1300年代、ヨーロッパでのペストの大流行を契機に、イタリア諸国では、衛生局が設置された。
- 2 イギリスは、近代公衆衛生の父と言われるチャドウィックの報告をうけ、1848年に世界で最初の公衆衛生法を制定した。
- 3 1919年、国際連合の保健専門機関として、国際連合食糧農業機関(FAO)が発足した。
- 4 WHOは、1978年、「西暦2000年までにすべての人々に健康を」をめざし、プライマリ・ヘルスケアに関する「アルマ・アタ宣言」を採択した。

問6 次の日本における公衆衛生の歴史に関する記述のうち、誤っているものはどれか。  
(H30-6)

- 1 日本の公衆衛生は、1874(明治7)年の医制の発布に始まる。
- 2 1914(大正3)年、日本赤十字社により乳幼児健康相談事業所が設置された。
- 3 1935(昭和10)年以後のロックフェラー財団の寄付により、国立公衆衛生院(現国立保健医療科学院)が設置された。
- 4 第二次世界大戦終結前から、公衆衛生行政は衛生行政に位置づけられていた。

問7 次の健康の定義に関する記述のうち、( )の中に入る語句の組合せとして正しいものはどれか。(H29-6)

世界保健機関(WHO)は、「健康とは状態であり、身体的( A )、そして( B )に完全に良好であり、単に疾病や虚弱ではないという状態ではない。」と定義している。

	A	B
1	文化的	宗教的
3	科学的	経済的
2	衛生的	政治的
4	精神的	社会的

## 正答・解説【過去問】

問1 正答4

日本国憲法第25条には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」、「国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」とあり、健康は基本的権利であり、その保障のための公衆衛生に対する国の責務が示されている。

問2 正答1

世界保健機関(WHO)は、健康について「健康とは状態であり、身体的、精神的そして社会的に完全に良好であり、単に疾病や虚弱ではないという状態ではない。」と定義している。

問3 正答1

WHO(世界保健機関)は、健康について「健康とは状態であり、身体的、精神的そして社会的に完全に良好であり、単に疾病や虚弱ではないという状態ではない。」と定義している。

問4 正答1

1 1947年、保健所法は全面改正され、保健所を都道府県または政令で定める市に設置するとされた。

問5 正答3

3 1948年、国際連合の保健専門機関として、世界保健機関(WHO)が発足した。国際連合食糧農業機関(FAO)は飢餓の撲滅を目的として1945年に設置された。1919年に発足したのは国際連盟

問6 正答4

4 日本の公衆衛生は、戦後、日本国憲法第25条を根拠にして展開された。

問7 正答4

世界保健機関(WHO)は、健康について「健康とは状態であり、身体的、精神的そして社会的に完全に良好であり、単に疾病や虚弱ではないという状態ではない。」と定義している。

## <公害>

### 【最重要キーワード】

環境基本法では、大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭の他に、土壌汚染、振動、地盤沈下を公害の原因としている。

熊本県の水俣病は、工場排水に含まれるメチル水銀が魚介類に蓄積されて、これを摂取することで起こった神経系疾患である。

水質汚濁には、人為的要因の他、水温や水底の底質の悪化、潮流の変化、生物による食物連鎖などの自然要因もある。

ダイオキシンは、蓄積性が高く、体内では分解されない

近年、住宅建材から放出されるホルムアルデヒドによる室内空気汚染の問題(シックハウス症候群)がある。

### 四大公害

水俣病	メチル水銀	熊本県水俣湾	神経障害、平衡機能障害
第二水俣病	メチル水銀	新潟県阿賀野川流域	神経障害、平衡機能障害
イタイイタイ病	カドミウム	富山県神通川流域	骨軟化症・腎機能障害
四日市ぜんそく	亜硫酸ガス	三重県四日市市	気管支炎、ぜんそく

## 覚えよう！【出た順まとめ】

### （水質汚濁）

- ★★★熊本県の水俣病は、工場排水に含まれるメチル水銀が魚介類に蓄積されて、これを摂取することで起こった神経系疾患である。(R4)(R3)(H30)
- ★★★水質汚濁には、人為的要因の他、水温や水底の底質の悪化、潮流の変化、生物による食物連鎖などの自然要因もある。(R2)(R1)(H29)
- ★工場排水による公共水域の汚染だけでなく、一般家庭の生活排水による水質汚濁も問題となっている。(R3)

### （公害）

- ★★★環境基本法では、大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭の他に、土壌汚染、振動、地盤沈下を公害の原因としている。(R2)(R1)(H29)

### （大気汚染）

- ★★ダイオキシンは、蓄積性が高く、体内では分解されない(R5)(H29)
- ★★近年、住宅建材から放出されるホルムアルデヒドによる室内空気汚染の問題(シックハウス症候群)がある。(R5)(R3)
- ★亜硫酸ガスは、四日市喘息の原因物質。(R5)
- ★窒素酸化物は、光化学スモッグの原因物質(R5)
- ★2009年に、PM2.5(微小粒子状物質)の環境基準が設定された。(R3)
- ★大気汚染物質の二酸化硫黄は、工場や排気ガスの規制によって環境基準を達成し、良好な状況にある。(R2)
- ★大気汚染物質には、二酸化硫黄、一酸化炭素、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダントがあげられる。(R1)
- ★光化学オキシダントは、環境基準の達成率が0%。大変厳しい状況にある。(H29)

### （騒音）

- ★WHOのガイドラインによると、快適な睡眠のためには、45デシベル(dB)を超えるような騒音は避けるべきであるとしている。(R2)
- ★騒音とは、一般に不快な音、好ましくない音を言う。騒音値はデシベル(db)という単位で示される。(R1)

## 解いてみよう！【過去問】

問1 次の公害に関する物質と説明の組合せのうち、正しいものはどれか。(R5-8)

	物質	説明
1	光化学オキシダント	住宅建材などから放出される
2	PM2.5	光化学スモッグの原因物質
3	ダイオキシン	蓄積性が高く、体内では分解されない
4	メチル水銀	四日市ぜんそくの原因物質

問2 次の水俣病に関する記述のうち、AとBの中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。(R4-9)

熊本県の水俣病は、工場排水に含まれる( A )が魚介類に蓄積されて、これを摂取することで起こった(B)である。

	A	B
1	光化学スモッグ	呼吸器系疾患
2	ダイオキシン類	免疫系疾患
3	カドミウム	循環器系疾患
4	メチル水銀	神経系疾患

問3 次の公害に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R3-10)

- 1 水俣病は、工場排水に含まれるメチル水銀が魚介類に蓄積され、これを摂取することで起こった神経系疾患である。
- 2 2009年に、PM2.5(微小粒子状物質)の環境基準が設定された。
- 3 工場排水による公共水域の汚染だけでなく、一般家庭の生活排水による水質汚濁も問題となっている。
- 4 近年、住宅建材から放出されるダイオキシンによる室内空気汚染の問題がある。

問4 次の公害に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R2-10)

- 1 大気汚染物質の二酸化硫黄は、工場や排気ガスの規制によって環境基準を達成し、良好な状況にある。
- 2 水質汚濁には水質のほか温度等の水の状態も含み、さらに水底の底質が悪化することも含んでいる。
- 3 WHOのガイドラインによると、快適な睡眠のためには、45デシベル(dB)を超えるような騒音は避けるべきであるとしている。
- 4 環境基本法では、大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭の4つのみを公害の範囲とし、「典型4公害」としている。

問5 次の公害に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R1-10)

- 1 大気汚染物質には、二酸化硫黄、一酸化炭素、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダントがあげられる。
- 2 水質汚濁には、工場排水等の人為的要因によるものだけであり、自然要因によるものはない。
- 3 騒音とは、一般に不快な音、好ましくない音を言う。騒音値はデシベル(db)という単位で示される。
- 4 環境基本法では、土壌汚染も公害の範囲に含んでいる。

問6 次の公害に関する記述のうち、( )の中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。(H30-10)

「( A )は、化学工場からの工場排水に含まれる( B )が魚介類に蓄積されて、これを摂取することで起こった神経系疾患である。」

	A	B
1	水俣病	メチル水銀
3	四日市ぜんそく	カドミウム
2	イタイイタイ病	二酸化硫黄
4	川崎公害	六価クロム

問7 次の公害に関する記述のうち、正しいものはどれか。(H29-11改)

- 1 光化学オキシダントは、工場や排気ガスの規制によって環境基準を達成し、良好な状況にある。
- 2 水質汚濁は、工場排水、下水の放流や汚染物質の投棄等による人為的な要因のみにより生じる。
- 3 環境基本法では、大気汚染、水質汚濁、騒音の他に、振動、地盤沈下、悪臭及び土壌汚染を公害の範囲に含み、「典型7公害」とされている。
- 4 ダイオキシン類は蓄積性が高いが、生体内で分解されるため、持続的に暴露され続けても影響が現れる可能性は低い。

## 正答・解説【過去問】

問1 正答3

- 1 住宅建材などから放出されるのはホルムアルデヒド
- 2 光化学スモッグの原因物質は窒素酸化物
- 4 四日市喘息の原因物質は、亜硫酸ガス。メチル水銀は水俣病。

問2 正答4

熊本県の水俣病は、工場排水に含まれるメチル水銀が魚介類に蓄積されて、これを摂取することで起こった神経系疾患である。

四大公害

水俣病	メチル水銀	熊本県水俣湾	神経障害、平衡機能障害
第二水俣病	メチル水銀	新潟県阿賀野川流域	神経障害、平衡機能障害
イタイタイ病	カドミウム	富山県神通川流域	骨軟化症・腎機能障害
四日市ぜんそく	亜硫酸ガス	三重県四日市市	気管支炎、ぜんそく

問3 正答4

- 4 近年、住宅建材から放出されるホルムアルデヒドによる室内空気汚染の問題(シックハウス症候群)がある。

問4 正答4

- 4 環境基本法では、大気汚染、水質汚濁、騒音、悪臭の他に、土壌汚染、振動、地盤沈下を公害の原因としている。

問5 正答2

水質汚濁には、人為的要因の他、水温や潮流の変化、生物による食物連鎖などの自然要因もある。

問6 正答1

「水俣病は、化学工場からの工場排水に含まれるメチル水銀が魚介類に蓄積されて、これを摂取することで起こった神経系疾患である。」

問7 正答3

- 1 光化学オキシダントは、環境基準の達成率が0%。大変厳しい状況にある。
- 2 水質汚濁は、工場排水、下水の放流や汚染物質の投棄等による人為的な要因の他、水温や潮流の変化、生物による食物連鎖などの自然要因で生じる。
- 4 ダイオキシン類は蓄積性が高く、生体内で分解されないため、持続的に暴露され続けると健康被害が現れる可能性が高い。

## <感染症と病原体>

### 【最重要キーワード】

破傷風は、細菌

コレラは、細菌

ジフテリアは、細菌

腸チフスは細菌

淋病は細菌

エイズは、ウイルス

日本脳炎は、ウイルス

狂犬病は、ウイルス

麻疹はウイルス

オウム病は、クラミジア

つつが虫病は、リケッチア

カンジダ症は、真菌

トキソプラズマ症は、原虫

梅毒は、スピロヘータ

赤痢は、経口感染

日本脳炎は、経皮感染

マラリアは、経皮感染

風疹は、母子感染

発病してはいないが病原体を保有する保菌者でも、病原体を排泄する。

主な感染症病原体

原虫	マラリア、赤痢、トキソプラズマ症
真菌	皮膚糸状菌症(水虫・たむし)
スピロヘータ	梅毒、回帰熱
細菌	ペスト、コレラ、結核菌、腸チフス、破傷風、ジフテリア、パラチフス、淋病
リケッチア	ツツガ虫病、Q熱
クラミジア	オウム病
ウイルス	デング熱、日本脳炎、狂犬病、E型肝炎、エイズ、麻疹(はしか)、おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)、水痘(みずぼうそう)
プリオン	狂牛病、クロイツフェルト・ヤコブ病

主な感染経路

経口感染	手指・食品・器具を介して伝染	赤痢、コレラ
飛沫感染	飛沫やじんあいを吸い込むことによる感染	インフルエンザ、結核、風疹、おたふくかぜ
接触感染 経皮感染	感染源(動物・昆虫・寄生虫・病原体)に直接接触れる・刺される・かまれることよって感染	破傷風、日本脳炎、マラリア
空気感染	飛沫核を吸い込むことによる感染	結核、はしか、水ぼうそう
母子感染	病原体が胎盤や母乳、産道を通じて感染	風疹、B・C型肝炎、HIV、トキソプラズマ、性器クラミジア

## 覚えよう！【出た順まとめ】

### (病原体)

★★破傷風は、細菌(R3)(R1)

★★コレラは、細菌(R3)(H30)

★ジフテリアは、細菌(R2)

★腸チフスは細菌(R1)

★淋病は細菌(R1)

★エイズは、ウイルス(R3)

★麻疹はウイルス(R3)

★日本脳炎は、ウイルス(R2)

★狂犬病は、ウイルス(H30)

★オウム病は、クラミジア(R2)

★つつが虫病は、リケッチア(R2)

★カンジダ症は、真菌(R1)

★トキソプラズマ症は、原虫(H30)

★梅毒は、スピロヘータ(H30)

### (感染経路)

★赤痢は、経口感染(R4)

★日本脳炎は、経皮感染(R4)

★マラリアは、経皮感染(R4)

★風疹は、母子感染(R4)

### (感染症)

★感染源、感染経路または感受性の三つのいずれかをなくすれば、感染症は予防できる。

(H29)

★マラリアや日本脳炎は、蚊が媒介する感染症である。(H29)

★人体に病原体が侵入したとき、すべての人が同程度に発病するということはない。(H29)

★発病してはいないが病原体を保有する保菌者でも、病原体を排泄する。(H29)

解いてみよう！【過去問】

問1 次の感染経路と感染症の組合せのうち、誤っているものはどれか。(R4-10)

	感染経路	感染症
1	経口感染	赤痢
2	飛沫感染	日本脳炎
3	経皮感染	マラリア
4	母子感染	風疹

問2 次の感染症と病原体の組合せのうち、正しいものはどれか。(R3-11)

	感染症	病原体
1	エイズ	ウイルス
2	破傷風	真菌
3	コレラ	原虫
4	麻疹	細菌

問3 次の感染症と病原体の組合せのうち、正しいものはどれか。(R2-11)

	感染症	病原体
1	オウム病	クラミジア
2	つつが虫	ウイルス
3	日本脳炎	原虫
4	ジフテリア	リケッチア

問4 次の感染症と病原体の組合せとして、正しいものはどれか。(R1-11)

	感染症	病原体
1	腸チフス	原虫
2	カンジダ症	真菌
3	りん病	クラミジア
4	破傷風	ウイルス

問5 次の感染症と病原体の組合せとして、誤っているものはどれか。(H30-11)

	感染症	病原体
1	コレラ	リケッチア
3	狂犬病	ウイルス
2	トキソプラズマ症	原虫
4	梅毒	スピロヘータ

問6 次の感染症に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(H29-12)

- 1 感染源、感染経路または感受性の三つのいずれかをなくすれば、感染症は予防できる。
- 2 マラリアや日本脳炎は、蚊が媒介する感染症である。
- 3 人体に病原体が侵入したとき、すべての人が同程度に発病するということはない。
- 4 発病してはいないが病原体を保有する保菌者は、病原体を排泄することはない。

## 正答・解説【過去問】

問1 正答2

2 日本脳炎は、蚊を媒介にする経皮感染(接触感染)。

主な感染経路

経口感染	手指・食品・器具を介して伝染	赤痢、コレラ
飛沫感染	飛沫やじんあいを吸い込むことによる感染	インフルエンザ、結核、風疹、おたふくかぜ
接触感染 経皮感染	感染源(動物・昆虫・寄生虫・病原体)に直接接触 れる・刺される・かまれることによって感染	破傷風、日本脳炎、マラリア
空気感染	飛沫核を吸い込むことによる感染	結核、はしか、水ぼうそう
母子感染	病原体が胎盤や母乳、産道を通じて感染	風疹、B・C型肝炎、HIV、トキソプラズマ、性器クラミジア

問2 正答1

2 破傷風は、細菌(破傷風菌)

3 コレラは、細菌(コレラ菌)

4 麻疹は「はしか」のことで、ウイルス(麻疹ウイルス)

主な感染症病原体

原虫	マラリア、赤痢、トキソプラズマ症
真菌	皮膚糸状菌症(水虫・たむし)
スピロヘータ	梅毒、回帰熱
細菌	ペスト、コレラ、結核菌、腸チフス、破傷風、ジフテリア、パラチフス、淋病
リケッチア	ツツガ虫病、Q熱
クラミジア	オウム病
ウイルス	デング熱、日本脳炎、狂犬病、E型肝炎、エイズ、麻疹(はしか)、おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)、水痘(みずぼうそう)
プリオン	狂牛病、クロイツフェルト・ヤコブ病

問3 正答1

1 オウム病は、クラミジア(※)

※クラミジアは節足動物の媒介が必要なく、リケッチアより小さくウイルスより大きい。動物の細胞内でしか増殖できない。現在では「細胞寄生性のグラム陰性菌(類似細菌)」とする場合もある。

2 つつが虫病は、リケッチア(※)

※リケッチアは節足動物の媒介が必要で、細菌より小さくクラミジアより大きい。動物の細胞内でしか増殖できない。クラミジア同様、「細胞寄生性のグラム陰性菌(類似細菌)」とする場合もある。

3 日本脳炎は、ウイルス(日本脳炎ウイルス)

4 ジフテリアは、細菌(ジフテリア菌)

問4 正答2

- 1 腸チフスは細菌
- 3 淋病は細菌
- 4 破傷風は細菌

問5 正答1

- 1 コレラは細菌(コレラ菌)。

問6 正答4

- 4 発病してはいないが病原体を保有する保菌者でも、病原体を排泄する。

## <生活習慣病>

### 【最重要キーワード】

一般に生活習慣病とは、食生活、運動、喫煙、飲酒などの生活習慣による影響が大きい。

生活習慣病の原因は、運動、アルコール、食事が関係していることから、生涯を通じた取り組みが重要である。

「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、医療保険者の義務として、40から74歳の医療保険加入者に、特定健康診査と特定保健指導が実施されている。

わが国では、男女とも胃がんによって死亡するものが断然多かったが、平成26年のがんによる死亡数は、男性では、①肺がん、②胃がん、③大腸がんの順となった。女性では、①大腸がん、②肺がん、③胃がんの順である。

心筋梗塞の治療後の後遺症は不整脈や再発があるが、半身不随などの神経症状はない。

メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪症候群のことである。

#### がん罹患数

2019年	1位	2位	3位
男	前立腺	大腸	胃
女	乳房	大腸	肺
総数	大腸	肺	胃

#### がん死亡数

2021年	1位	2位	3位
男	肺	大腸	胃
女	大腸	肺	膵臓
総数	肺	大腸	胃

## 覚えよう！【出た順まとめ】

(がん)

★★★わが国では、男女とも胃がんによって死亡するものが断然多かったが、平成26年のがんによる死亡数は、男性では、①肺がん、②胃がん、③大腸がんの順となった。女性では、①大腸がん、②肺がん、③胃がんの順である。(R2)(R1)(H30)

★がんの予防には、生活習慣を見直し、早期発見に努めることが重要である。(R5)

(生活習慣病)

★★「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、医療保険者の義務として、40から74歳の医療保険加入者に、特定健康診査と特定保健指導が実施されている。(R4)(H29)

★生活習慣病の対策は、幼少期からの生活習慣の見直しや改善による予防が重要である。(R4)

★一般に生活習慣病とは、食生活、運動、喫煙、飲酒などの生活習慣による影響が大きい。(R4)

★生活習慣病の原因は、運動、アルコール、食事に関係していることから、生涯を通じた取り組みが重要である。(H29)

★内分泌の異常や、喫煙、動物性脂肪の摂り過ぎは、動脈硬化症の原因となることがある。(R5)

★アルコール摂取過多などで脂肪肝となり、肝硬変に移行し、さらに肝がんになることがある。(R5)

(心疾患)

★心筋梗塞の治療後の後遺症は不整脈や再発があるが、半身不随などの神経症状はない。(R5)

★虚血性心疾患の要因としては、脂質異常症、高血圧、糖尿病、喫煙などがあげられる。(H29)

(メタボリックシンドローム)

★メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪症候群のことである。(R4)

★メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の診断基準のうち、ウエスト周囲径(腹囲)は、男性が85cm以上、女性が90cm以上である。(H29)

## 解いてみよう！【過去問】

問1 次の生活習慣病に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R5-12)

- 1 心臓の冠動脈が詰まって心筋梗塞を起こすと、回復しても半身不随の後遺症が残る場合が多い。
- 2 内分泌の異常や、喫煙、動物性脂肪の摂り過ぎは、動脈硬化症の原因となることがある。
- 3 がんの予防には、生活習慣を見直し、早期発見に努めることが重要である。
- 4 アルコール摂取過多などで脂肪肝となり、肝硬変に移行し、さらに肝がんになることがある。

問2 次の生活習慣病に関する記述のうち、正しいものはどれか。(R4-12)

- 1 一般に生活習慣病とは、遺伝的要因による影響が大きい。
- 2 生活習慣病の対策は、幼少期からの生活習慣の見直しや改善による予防が重要である。
- 3 メタボリックシンドロームとは、内臓肥満に伴う高血圧症のことである。
- 4 医療保険者の義務として、40歳以下の被保険者には特定健康診断と特定保健指導が実施されている。

問3 次のがんに関する記述のうち、A、B、Cの中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。(R2-13)

「日本における平成26年のがんによる死亡数は、男性では、①肺がん、②胃がん、③大腸がんの順となった。女性では、①( A )、②( B )、③( C )の順である。」

	A	B	C
1	乳がん	肺がん	食道がん
2	肝臓がん	胃がん	卵巣がん
3	大腸がん	肺がん	胃がん
4	胃がん	子宮がん	肺がん

問4 次のがんに関する記述のうち、の中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。  
(R1-13)

「わが国では男女とも胃がんによって死亡するものが断然多かったが、平成26年の実数では、男性では、①A、②B、③Cの順となった。女性では、①大腸がん②肺がん③胃がん順である。」

	A	B	C
1	肝臓がん	肺がん	胃がん
2	胃がん	食道がん	肝臓がん
3	肺がん	胃がん	大腸がん
4	大腸がん	精巣がん	肺がん

問5 次のがんに関する記述のうち、( )の中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。(H30-13)

「わが国では、男女とも胃がんによって死亡するものが断然多かったが、平成26年の実数では、男性では、①肺がん、②胃がん、③大腸がんの順となった。女性では、①( A )、②( B )、③( C )の順である。」

	A	B	C
1	大腸がん	肺がん	胃がん
3	卵巣がん	肝臓がん	肺がん
2	子宮がん	卵巣がん	大腸がん
4	腎臓がん	子宮がん	卵巣がん

問6 次の生活習慣病に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(H29-13改)

- 1 生活習慣病の原因は、運動、アルコール、食事が関係していることから、成人期以降の取り組みが重要である。
- 2 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の診断基準のうち、ウエスト周囲径(腹囲)は、男性が85cm以上、女性が90cm以上である。
- 3 虚血性心疾患の要因としては、脂質異常症、高血圧、糖尿病、喫煙などがあげられる。
- 4 「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、40から74歳の医療保険加入者に、特定健康診査と特定保健指導が実施されている。

## 正答・解説【過去問】

### 問1 正答1

1 心筋梗塞の治療後の後遺症は不整脈や再発があるが、半身不随などの神経症状はない。半身不随などの後遺症が残る疾患は脳血管疾患。

### 問2 正答2

- 1 一般に生活習慣病とは、食生活、運動、喫煙、飲酒などの生活習慣による影響が大きい。
- 3 メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪症候群のことである。
- 4 医療保険者の義務として、40歳以上75歳未満の被保険者・被扶養者には特定健康診断と特定保健指導が実施されている。

### 問3 正答3

「日本における平成26年のがんによる死亡数は、男性では、①肺がん、②胃がん、③大腸がんの順となった。女性では、①大腸がん、②肺がん、③胃がんの順である。」

令和3年のがん死亡数は、男性では、①肺がん、②大腸がん、③胃がんの順となった。女性では、①大腸がん、②肺がん、③膵臓がんの順である。

#### がん罹患数

2019年	1位	2位	3位
男	前立腺	大腸	胃
女	乳房	大腸	肺
総数	大腸	肺	胃

#### がん死亡数

2021年	1位	2位	3位
男	肺	大腸	胃
女	大腸	肺	膵臓
総数	肺	大腸	胃

### 問4 正答3

「わが国では男女とも胃がんによって死亡するものが断然多かったが平成26年の実数では、男性では、①肺がん、②胃がん、③大腸がんの順となった。女性では、①大腸がん②肺がん③胃がん順である。」

令和3年のがん死亡数は、男性では、①肺がん、②大腸がん、③胃がんの順となった。女性では、①大腸がん、②肺がん、③膵臓がんの順である。

問5 正答1

「わが国では男女とも胃がんによって死亡するものが断然多かったが平成26年の実数では、男性では、①肺がん、②胃がん、③大腸がんの順となった。女性では、①大腸がん②肺がん③胃がん順である。」

令和3年のがん死亡数は、男性では、①肺がん、②大腸がん、③胃がんの順となった。女性では、①大腸がん、②肺がん、③膵臓がんの順である。

問6 正答1

1 生活習慣病の原因は、運動、アルコール、食事が関係していることから、生涯を通じた取り組みが重要である。

## <労働衛生>

### 【最重要キーワード】

安全衛生教育は、雇用形態問わず全労働者に実施しなくてはならない。

労働者が労働災害により負傷した(休業4日以上)場合あるいは死亡した場合は、労働基準監督署に届ける必要がある。

「事業者は施設の規模に関わらず、労働安全衛生法に基づいて、労働者の安全と健康を守る義務がある。常時、従業員50人以上を使用する事業場では、その規模に応じて安全管理者、衛生管理者、産業医等を選任し、労働安全衛生と従業員の健康の保持増進に努める必要がある。」

原則として週40時間が、法定の労働時間として定められている。

事業者は、特定の有害な業務に常時従事する労働者の健康障害を予防・早期発見するために特別健康診断を実施しなければならない。

減圧症は潜水土に多い。

## 覚えよう！【出た順まとめ】

### （労働安全衛生法）

- ★★「事業者は施設の規模に関わらず、労働安全衛生法に基づいて、労働者の安全と健康を守る義務がある。常時、従業員50人以上を使用する事業場では、その規模に応じて安全管理者、衛生管理者、産業医等を選任し、労働安全衛生と従業員の健康の保持増進に努める必要がある。」(R5)(R3)
- ★★菓子製造施設においても、事業者はその規模にかかわらず、労働安全衛生法に基づき、労働者の安全と健康を守る義務がある。(R5)(R1)
- ★労働者の健康を守ることを目的として、1972年に労働安全衛生法が単独立法化された。(R4)
- ★労働者の健康を維持するために、職場の労働条件や作業環境を改善することを産業保健（労働衛生）という。(R4)
- ★安全衛生教育は、雇用形態問わず全労働者に実施しなくてはならない。(R5)

### （職業病）

- ★菓子製造業の事業場では、同一姿勢や繰り返し作業による腰痛や腱鞘炎、頸肩腕症候群、
- ★機械稼働時の騒音による難聴などの健康被害が生じるおそれがある。(R5)
- ★職業病とは、それぞれの職業の労働条件が原因となって発生するものである。(R1)
- ★腱鞘炎は、速記者に多い。(H30)
- ★減圧症は潜水士に多い。(H30)
- ★静脈瘤は、立ち仕事が多い職業に多い。(H30)
- ★じん肺症は、炭鉱採掘夫、アスベストを用いる建築・解体に従事する職業に多い。(H30)
- ★職業病や労働災害によって労働が困難・不能になった場合、法に基づき「業務上の疾病」と認定されれば補償が行われる。(H30)

### （健康診断）

- ★事業者は、常時使用する労働者に対し一般健康診断を実施しなければならない。特定の有害な業務に常時従事する労働者の健康障害を予防・早期発見するために特別健康診断を実施しなければならない。(H30)
- ★常時50人以上の労働者を使用する事業場の事業者は、労働基準監督署に健康診断の結果報告が義務付けられている。(R4)

(労働行政)

★労働者が労働災害により負傷した(休業4日以上)場合あるいは死亡した場合は、労働基準監督署に届ける必要がある。(R4)

★労働衛生行政は、厚生労働省、都道府県労働局、労働基準監督署によって運営される。(H30)

★近年、過労死が大きな問題となり、平成13年に新たな認定基準が制定された。(R1)

(労働基準法)

★原則として週40時間が、法定の労働時間として定められている。(R1)

★労働基準法においては、原則として週40時間を法定の労働時間とし、各日の上限として1日8時間と定められている。(H30)

## 解いてみよう！【過去問】

問1 次の労働安全衛生に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R5-13)

- 1 菓子製造施設においても、事業者はその規模にかかわらず、労働安全衛生法に基づき、労働者の安全と健康を守る義務がある。
- 2 従業員が50人以上の事業場では、規模に応じて安全管理者、衛生管理者、産業医などを選任し、労働安全衛生管理体制を整えなければならない。
- 3 菓子製造業の事業場では、同一姿勢や繰り返し作業による腰痛や腱鞘炎、頸肩腕症候群、機械稼働時の騒音による難聴などの健康被害が生じるおそれがある。
- 4 非正規社員は、正規社員と異なり、法律上、安全衛生に関する意識や知識に関する教育を行う対象外となる。

問2 次の産業保健(労働衛生)に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R4-13)

- 1 労働者の健康を維持するために、職場の労働条件や作業環境を改善することを産業保健(労働衛生)という。
- 2 労働者の健康を守ることを目的として、1972年に労働安全衛生法が単独立法化された。
- 3 労働者が労働災害により負傷した(休業4日以上)場合あるいは死亡した場合は、厚生労働大臣に届ける必要がある。
- 4 常時50人以上の労働者を使用する事業場の事業者は、労働基準監督署に健康診断の結果報告が義務付けられている。

問3 次の菓子製造施設における労働安全衛生に関する記述のうち、A、B、Cの中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。(R3-13)

「事業者は施設の規模に関わらず、( A )に基づいて、労働者の安全と健康を守る義務がある。常時、従業員( B )人以上を使用する事業場では、その規模に応じて安全管理者、衛生管理者、( C )等を選任し、労働安全衛生と従業員の健康の保持増進に努める必要がある。」

	A	B	C
1	製菓衛生師法	50	製菓衛生師
2	健康増進法	10	栄養士
3	労働安全衛生法	50	産業医
4	地域保健法	10	薬剤師

問4 次の労働衛生に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R1-14)

- 1 職業病とは、それぞれの職業の労働条件が原因となって発生するものである。
- 2 近年、過労死が大きな問題となり、平成13年に新たな認定基準が制定された。
- 3 菓子製造施設においても、労働安全衛生法に基づき、事業主は労働者の安全と健康を守る義務がある
- 4 原則として週50時間が、法定の労働時間として定められている。

問5 次の安全衛生管理に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(H30-14)

- 1 労働衛生行政は、厚生労働省、都道府県労働局、労働基準監督署によって運営される。
- 2 労働基準法においては、原則として週40時間を法定の労働時間とし、各日の上限として1日8時間と定められている。
- 3 事業者は、疾病異常を発見するため、すべての労働者に対し特殊健康診断を実施しなければならない。
- 4 職業病や労働災害によって労働が困難・不能になった場合、法に基づき「業務上の疾病」と認定されれば補償が行われる。

問6 次の職業病とかかりやすい職業の組合せのうち、誤っているものはどれか。(H29-14)

	職業病	かかりやすい職業
1	腱鞘炎	速記者
2	減圧症	火夫
3	静脈瘤	デパート店員
4	じん肺症	炭鉱採掘夫

## 正答・解説【過去問】

問1 正答4

4 安全衛生教育は、雇用形態問わず全労働者に実施しなくてはならない。

問2 正答3

3 労働者が労働災害により負傷した(休業4日以上)場合あるいは死亡した場合は、労働基準監督署に届ける必要がある。

問4 正答3

「事業者は施設の規模に関わらず、労働安全衛生法に基づいて、労働者の安全と健康を守る義務がある。常時、従業員50人以上を使用する事業場では、その規模に応じて安全管理者、衛生管理者、産業医等を選任し、労働安全衛生と従業員の健康の保持増進に努める必要がある。」

問5 正答4

4 原則として週40時間が、法定の労働時間として定められている。

一日8時間、週40時間を超えて労働させてならない。

労働時間が6時間を超える場合は45分以上、8時間を超える場合は1時間以上の休憩を与えなければならない。

少なくとも毎週1日の休日か、4週間を通じて4日以上の日を休ませなければならない。

問6 正答3

3 事業者は、常時使用する労働者に対し一般健康診断を実施しなければならない。特定の有害な業務に常時従事する労働者の健康障害を予防・早期発見するために特別健康診断を実施しなければならない。

問7 正答2

1 速記者とは、特殊な記号を用いて議会や裁判所などでの発言を書き記す職業。

2 減圧症は潜水士。火夫とは、蒸気機関車や蒸気船などボイラーの火を扱う職業で、職業病として熱射病ある。

3 静脈瘤は、販売員や調理師、美容師など立ち仕事が多い職業に多い。

4 炭鉱採掘夫、陶磁器製造、製紙業、トンネル工事、アスベストを用いる建築・解体現場など土ぼこりや金属・鉱物性の粉塵の発生する環境で長期間仕事をした結果、肺の組織が硬くなって息切れや呼吸困難(じん肺症)が起きやすくなる。

## <感染予防>

### 【最重要キーワード】

感染症を引き起こす三条件(感染源、感染経路、宿主)を全て断ち切ることが予防対策となる。(R5)(R3)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、特定の感染症について、症状の重さや感染力をもとに1類～5類、指定感染症、新感染症の7つに分類し、感染拡大防止対策が行われている。(R4)

感染症の予防対策で最も重要なことは、感染経路の遮断であり、手洗いにより接触感染、マスクの着用により飛沫感染を予防する。(R3)

腸管出血性大腸菌感染症、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)の3類感染症であり、患者あるいは無症候性キャリアは、病原体を有していないことが確認されるまで、食品に直接接触する業務に従事することを禁止されている。(R5)

## 覚えよう！【出た順まとめ】

### (感染症予防)

- ★★感染症を引き起こす三条件(感染源、感染経路、宿主)を全て断ち切ることが予防対策となる。(R5)(R3)
- ★★適切な手洗いは、病原体の伝播を予防する最も重要な手段である。(R5)(R3)
- ★★血液や便、嘔吐物などに直接触れないことは、感染経路対策として重要である。(R5)(R3)
- ★感染源対策として、環境の清潔を保持することや、適切な消毒を行うことが重要である。(R5)
- ★感染症法では、人と動物とが共通して感染する感染症についても対策が講じられている。(R4)
- ★外国から来る飛行機や船舶について、空港や港で検疫法に基づく検疫が行われている。(R4)
- ★定期予防接種は、多くの人が受けることにより、感染症のまん延を防止するという社会的な意義もある。(R4)
- ★感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、特定の感染症について、症状の重さや感染力をもとに1類～5類、指定感染症、新感染症の7つに分類し、感染拡大防止対策が行われている。(R4)
- ★感受性対策では、予防接種によって人工的に免疫をつけておくことは積極的な対策となる。(R3)
- ★感染症の予防対策で最も重要なことは、感染経路の遮断であり、手洗いにより接触感染、マスクの着用により飛沫感染を予防する。(R3)

### (3類感染症)

- ★腸管出血性大腸菌感染症、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)の3類感染症であり、患者あるいは無症候性キャリアは、病原体を有していないことが確認されるまで、食品に直接触れる業務に従事することを禁止されている。(R5)

## 解いてみよう！【過去問】

問1 次の感染症の予防対策に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R5-9)

- 1 感染源対策として、環境の清潔を保持することや、適切な消毒を行うことが重要である。
- 2 適切な手洗いは、病原体の伝播を予防する最も重要な手段である。
- 3 血液や便、嘔吐物などに直接触れないことは、感染経路対策として重要である。
- 4 感染症を引き起こす五条件を全て断ち切ることが予防対策となる。

問2 次のわが国の感染症対策に関する記述のうち、( )の中に入る語句の組合せとして、正しいものはどれか。(R5-11)

腸管出血性大腸菌感染症、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)の3類感染症であり、患者あるいは( A )は、病原体を有していないことが確認されるまで、( B )に従事することを禁止されている。

	A	B
1	濃厚接触者	食品に直接触れる業務
2	濃厚接触者	食品を取り扱う業務全般
3	無症候性キャリア	食品に直接触れる業務
4	無症候性キャリア	食品を取り扱う業務全般

問3 次のわが国の感染症対策に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R4-11)

- 1 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、感染症全てを1類～3類に類型し、感染拡大防止対策が行われている。
- 2 感染症法では、人と動物とが共通して感染する感染症についても対策が講じられている。
- 3 外国から来る飛行機や船舶について、空港や港で検疫法に基づく検疫が行われている。
- 4 定期予防接種は、多くの人が受けることにより、感染症のまん延を防止するという社会的な意義もある。

問4 次の感染症の予防対策に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R3-12)

- 1 感染症は、感染源、感染経路、感受性のある宿主のいずれかを断ち切ることが予防対策となる。
- 2 感染症の予防対策で最も重要なことは、消毒薬によって微生物を完全に除去することである。
- 3 感染経路対策は、感染症を拡げないための対策であり、手洗いの励行、血液や排泄物に直接触れないことが基本となる。
- 4 感受性対策では、予防接種によって人工的に免疫をつけておくことは積極的な対策となる。

## 正答・解説【過去問】

問1 正答4

4 感染症を引き起こす三条件(感染源、感染経路、宿主)を全て断ち切ることが予防対策となる。

問2 正答3

腸管出血性大腸菌感染症、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)の3類感染症であり、患者あるいは無症候性キャリアは、病原体を有していないことが確認されるまで、食品に直接触れる業務に従事することを禁止されている。

問3 正答1

1 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、特定の感染症について、症状の重さや感染力をもとに1類～5類、指定感染症、新感染症の7つに分類し、感染拡大防止対策が行われている。

問4 正答2

2 感染症の予防対策で最も重要なことは、感染経路の遮断であり、手洗いにより接触感染、マスクの着用により飛沫感染を予防する。

## <消毒薬・滅菌法>

### 【最重要キーワード】

嘔吐物による汚染の消毒には、次亜塩素酸ナトリウムが有効。

非金属器具の消毒には、第四級アンモニウム塩が有効。

排泄物による汚染には、クレゾール石鹼が有効。

アルコールは殺菌力も高く、広く使用されるが、吐物、排泄物による汚染に対する消毒には適しない。

### 主な消毒液

	手指皮膚	排泄物	金属	非金属	環境
グルタラール	×	×	○	○	×
過酢酸	×	×	○(鉄銅×)	○(ゴム×)	×
次亜塩素酸ナトリウム	△	○	×	○	○
ポビドンヨード	○	×	×	×	×
クレゾール	△	○	△	△	△
エタノール	○	×	○(鉄銅×)	○(ゴム×)	×
第四級アンモニウム塩	○	△	○(鉄銅×)	○(ゴム×)	○

### 主な滅菌法

日光消毒法	3時間以上日光に当てる	
紫外線消毒法	殺菌効果が強い短波長の紫外線を当てる	
火炎滅菌法	800～1000℃で数秒	可燃物や耐熱金属
乾熱滅菌法	160℃で1時間、180℃で30分	ガラス、金属など
流通蒸気滅菌法	100℃で30～60分	高圧蒸気法が使えないもの
高圧蒸気滅菌法	2気圧、121℃、20分。オートクレープ使用	手術器具、ガーゼなど
煮沸滅菌法	100℃で15～20分以上	芽胞には無効

## 覚えよう！【出た順まとめ】

### （消毒液）

- ★★嘔吐物による汚染の消毒には、次亜塩素酸ナトリウムが有効。(R5)(R1)
- ★★金属器具の消毒には、次亜塩素酸ナトリウムは使えない。(R5)(R2)
- ★★手指皮膚には、グルタラールは使えない。(R2)(R1)
- ★非金属器具の消毒には、第四級アンモニウム塩が有効。(R5)
- ★手指皮膚の消毒に過酢酸は使えない。(R5)
- ★生活環境(室内等)には、過酢酸は使えない。(R1)
- ★生活環境には、ポビドンヨードは使えない。(R2)
- ★金属器具には、ポビドンヨードは使えない。(R1)
- ★排泄物による汚染には、クレゾール石鹼が有効。(R2)
- ★アルコールは殺菌力も高く、広く使用されるが、吐物、排泄物による汚染に対する消毒には適しない。(H30)
- ★消毒とは、有害な物質を無毒化したり除去すること。(H30)

### （滅菌法）

- ★蒸気消毒法は、加熱した水蒸気を直接流通させて微生物を殺滅する方法で、100℃の蒸気の中に30～60分間放置する。(H30)
- ★乾燥した熱(乾熱)は、160～200℃で、30分～2時間で芽胞以外の一般細菌を感染可能な水準以下にできる。(H30)

## 解いてみよう！【過去問】

問1 次の使用目的と選択される消毒液との組合せのうち、正しいものはどれか。(R5-10)

	使用目的	選択される消毒液
1	嘔吐物による汚染の消毒	アルコール
2	非金属器具の消毒	第四級アンモニウム塩
3	金属器具の消毒	次亜塩素酸ナトリウム
4	手指皮膚の消毒	過酢酸

問2 次の使用目的別にみた消毒薬の選択の組合せとして、正しいものはどれか。(R2-12)

	使用目的	消毒薬
1	生活環境(室内等)	ポピドンヨード
2	手指皮膚	グルタラール
3	金属器具	次亜塩素酸ナトリウム
4	排泄物による汚染	クレゾール石けん

問3 次の使用目的別にみた消毒薬の選択の組合せとして、正しいものはどれか。(R1-12)

	使用目的	(消毒薬)
1	手指皮膚	グルタラール
2	生活環境(室内等)	過酢酸
3	金属器具	ポピドンヨード
4	吐物による汚染	次亜塩素酸ナトリウム

問4 次の消毒に関する記述のうち、正しいものはどれか。(H30-12)

- 1 消毒とは、生存するすべての微生物を殺滅もしくは除去することをいう。
- 2 アルコールは殺菌力も高く、広く使用されるが、吐物、排泄物による汚染に対する消毒には適しない。
- 3 蒸気消毒法は、加熱した水蒸気を直接流通させて微生物を殺滅する方法で、100℃の蒸気の中に10分間放置する。
- 4 乾燥した熱(乾熱)では80℃、10分間の処理で芽胞以外の一般細菌を感染可能な水準以下にできる。

## 正答・解説【過去問】

問1 正答2

- 1 嘔吐物による汚染の消毒には、次亜塩素酸ナトリウムが有効。(ノロウイルスにも有効。)
- 3 金属器具の消毒には、次亜塩素酸ナトリウムは使えない。
- 4 手指皮膚の消毒に過酢酸は使えない。アルコールなどを使う。

問2 正答4

- 1 生活環境には、ポビドンヨードは使えない。
- 2 手指皮膚には、グルタラールは使えない。
- 3 金属器具には、次亜塩素酸ナトリウムは使えない。

問3 正答4

- 1 手指皮膚にはグルタラールは使えない。グルタラールは、金属器具や非金属器具に使用する。
- 2 生活環境(室内等)には過酢酸は使えない。過酢酸は鉄や銅以外の金属器具やゴム以外の非金属器具に使用する。
- 3 金属器具にはポビドンヨードは使えない。ポビドンヨードは、手指皮膚、創傷などに使用する。

主な消毒液

	手指皮膚	排泄物	金属	非金属	環境
グルタラール	×	×	○	○	×
過酢酸	×	×	○(鉄銅×)	○(ゴム×)	×
次亜塩素酸ナトリウム	△	○	×	○	○
ポビドンヨード	○	×	×	×	×
クレゾール	△	○	△	△	△
エタノール	○	×	○(鉄銅×)	○(ゴム×)	×
第四級アンモニウム塩	○	△	○(鉄銅×)	○(ゴム×)	○

問4 正答2

- 1 消毒とは、有害な物質を無毒化したり除去すること。生存するすべての微生物を殺滅もしくは除去するのは滅菌。
- 3 蒸気消毒法は、加熱した水蒸気を直接流通させて微生物を殺滅する方法で、100℃の蒸気の中に30～60分間放置する。
- 4 乾燥した熱(乾熱)は、160～200℃で、30分～2時間で芽胞以外の一般細菌を感染可能な水準以下にできる。80℃、10分間の処理で芽胞以外の一般細菌を感染可能な水準以下にできるのは熱水消毒法。

主な滅菌法

日光消毒法	3時間以上日光に当てる	
紫外線消毒法	殺菌効果が強い短波長の紫外線を当てる	
火炎滅菌法	800～1000℃で数秒	可燃物や耐熱金属
乾熱滅菌法	160℃で1時間、180℃で30分	ガラス、金属など
流通蒸気滅菌法	100℃で30～60分	高圧蒸気法が使えないもの
高圧蒸気滅菌法	2気圧、121℃、20分。オートクレープ使用	手術器具、ガーゼなど
煮沸滅菌法	100℃で15～20分以上	芽胞には無効

## <衛生害虫等と感染症>

### 【最重要キーワード】

マラリアは、蚊  
 デング熱は、蚊  
日本脳炎は、蚊  
 ウエストナイル熱は、蚊  
 ジカウイルス熱は、蚊  
 ペストは、ノミ・ネズミ  
日本紅斑熱は、マダニ  
ワイル病は、ネズミ

### 主な感染症と媒介動物

日本脳炎	ブタ→蚊(コガタアカイエカ)
マラリア	蚊(ハマダラカ)
ジカウイルス熱	蚊(ヤブカ)
デング熱	蚊(ネッタイシマカ)
ウエストナイル熱	鳥→蚊(コガタアカイエカ)
ペスト	ノミ・ネズミ
ワイル病	ネズミ
疥癬	ヒゼンダニ
ツツガムシ病	ツツガムシ(ダニの一種)
日本紅斑熱	マダニ
赤痢	ハエ
発疹チフス	コロモジラミ

## 覚えよう！【出た順まとめ】

- ★★★★マラリアは、蚊(R4)(R3)(R2)(R1)
- ★★★デング熱は、蚊(R3)(R2)(R1)
- ★★日本脳炎は、蚊(R3)(R1)
- ★★ウエストナイル熱は、蚊(R2)(R1)
- ★★ジカウイルス熱は、蚊(R4)(R3)
- ★ペストは、ノミ・ネズミ(R4)
- ★日本紅斑熱は、マダニ(R4)
- ★ワイル病は、ネズミ(R2)

解いてみよう！【過去問】

問1 次の衛生害虫と害虫が媒介する感染症の組合せのうち、正しいものはどれか。(R4-8)

	害虫	感染症
1	蚊	ペスト
2	ツツガムシ	ジカウイルス熱
3	イエバエ	マラリア
4	マダニ	日本紅斑熱

問2 次の衛生害虫と媒介する感染症の組合せのうち、正しいものはどれか。(R3-9)

	害虫	感染症
1	蚊	日本脳炎
2	マダニ	ジカウイルス熱
3	イエバエ	デング熱
4	ゴキブリ	マラリア

問3 次の記述のうち、ねずみ族が媒介する感染症として、正しいものはどれか。(R2-9)

- 1 ウエストナイル熱
- 2 ワイル病
- 3 デング熱
- 4 マラリア

問4 次の有害害虫・媒介害虫と感染症の組合せとして、正しいものはどれか。(R1-9)

	害虫	感染症
1	マダニ	日本脳炎
2	ノミ	デング熱
3	蚊	ウエストナイル熱
4	ツツガムシ	マラリア

## 正答・解説【過去問】

問1 正答4

- 1 ペストは、ノミ・ネズミ
- 2 ジカウイルス熱は、蚊(ヤブカ)
- 3 マラリアは、蚊(ハマダラカ)

問2 正答1

- 2 ジカウイルス熱は、蚊(ヤブカ)
- 3 デング熱は、蚊(ネッタイシマカ)
- 4 マラリアは、蚊(ハマダラカ)

問3 正答2

- 1 ウエストナイル熱は、蚊(コガタアカイエカ)
- 2 ワイル病は、ドブネズミなどが媒介になる。レプトスピラ菌の感染症で、黄疸、出血、腎障害がみられる。
- 3 デング熱は、蚊(ネッタイシマカ)
- 4 マラリアは、蚊(ハマダラカ)

問4 正答3

- 1 日本脳炎は蚊。
- 2 デング熱は蚊。
- 3 マラリアは蚊。

## <環境衛生>

### 【最重要キーワード】

赤外線は、日光の中では波長の長い部分で、目に視覚としては感じないが、人体に当たると暖かく感じる。

一般に成人が1日に必要な水の量は2Lといわれ、その分を補給しなければ、生命を維持できない。

大気の正常な成分はおよそ窒素78%、酸素21%、アルゴン1%、二酸化炭素0.03%である。

## 覚えよう！【出た順まとめ】

(日光)

- ★★紫外線は、日光の中では波長の短い部分で、目に視覚としては感じないが、暴露した皮膚は赤くなり、その後メラニン色素を増やして黒くなることもある。(R5)(H30)
- ★★赤外線は、日光の中では波長の長い部分で、目に視覚としては感じないが、人体に当たると暖かく感じる。(R5)(H29)
- ★光は、物体から放出される電磁波のことであり、われわれに最も大切なものは、太陽から地球に届く日光である。(R5)
- ★可視光線は、量によって明るさが決まり、波長の組み合わせによって色の識別ができる。(R5)
- ★赤外線は、人体にあたると吸収されて熱を生ずるので、暖かく感じる。(H30)

(大気他)

- ★人間は産熱と放熱のバランスを保っている限り体温は一定に保たれ、このうち空気は放熱と深い関係がある(H30)
- ★一般に成人が1日に必要な水の量は2Lといわれ、その分を補給しなければ、生命を維持できない。(H30)
- ★一般的に、人間が快適だと感じる湿度は、40～60%程度とされている。(H29)
- ★カルシウムやマグネシウムの化合物を比較的多く含む水を硬水といい、これを飲むと胃腸障害を起こすことがある。(H29)
- ★大気の正常な成分はおよそ窒素78%、酸素21%、アルゴン1%、二酸化炭素0.03%である(H29)

## 解いてみよう！【過去問】

問1 次の環境要因の光に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(R5-7)

- 1 光は、物体から放出される電磁波のことであり、われわれに最も大切なものは、太陽から地球に届く日光である。
- 2 赤外線は、日光の中では波長の短い部分で、目に視覚としては感じないが、人体に当たると暖かく感じ、ビタミンDを形成する。
- 3 可視光線は、量によって明るさが決まり、波長の組み合わせによって色の識別ができる。
- 4 紫外線は、日光の中では波長の短い部分で、目に視覚としては感じないが、暴露した皮膚は赤くなり、その後メラニン色素を増やして黒くなることもある。

問2 次の環境衛生に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(H30-8)

- 1 人間は産熱と放熱のバランスを保っている限り体温は一定に保たれ、このうち空気は放熱と深い関係がある
- 2 赤外線は、人体にあたると吸収されて熱を生ずるので、暖かく感じる。
- 3 紫外線の紅斑作用とは皮膚に紫外線があたるとその部分が赤くなることで、しばらくするとメラニン色素が増えるため、その部分は黒くなる。
- 4 一般に成人が1日に必要な水の量は10Lといわれ、その分を補給しなければ、生命を維持できない。

問3 次の環境条件に関する記述のうち、誤っているものはどれか。(H29-9)

- 1 大気の正常な成分はおよそ酸素78%、窒素21%、アルゴン1%、二酸化炭素0.03%である
- 2 一般的に、人間が快適だと感じる湿度は、40～60%程度とされている。
- 3 赤外線は、日光の中では波長の長い部分で、目に視覚としては感じない。
- 4 カルシウムやマグネシウムの化合物を比較的多く含む水を硬水といい、これを飲むと胃腸障害を起こすことがある。

## 正答・解説【過去問】

問1 正答2

2 赤外線は、日光の中では波長の長い部分で、目に視覚としては感じないが、人体に当たると暖かく感じる。ビタミンDを形成するのは紫外線。

問2 正答4

4 一般に成人が1日に必要な水の量は2Lといわれ、その分を補給しなければ、生命を維持できない。

問3 正答1

1 大気の正常な成分はおよそ窒素78%、酸素21%、アルゴン1%、二酸化炭素0.03%である